

広島市東区消防署 レスキュー隊員との 交流会・質疑応答

年長さんから

Q.1. 「今日、幼稚園に来ている車は
どのようなことができるんですか？」

- A. 今日来ているのは救助工作車です。
火は消せないのですが、人を助ける
ための道具がたくさん入っています。



消防署にいる赤くて大きな車は、
【火を消す装置を備えた車】と捉え
がちですが、そうではないのですね
…そこをついた質問、鋭い！！

Q.2. 「そのレバーは何ですか？」

- A. クレーンを動かします。



Q.3. 「消防自動車はなんで、赤いんですか？」

- A. (この問いには、返答に詰まられ…すると
センパイ隊員がすかさずフォロー！)
一番初めにドイツから輸入された消防車が
赤だったことから、日本でも赤にしたということ。
それと、赤色は注意をひく色であること、
炎の赤を連想させる(警火心を起こさせる)こと。



Q.4. 「どうやって消防士さんになったんですか？」

- A. 勉強を頑張ることと、体力をつけること。
そしてテストも頑張りました。



『テスト』の言葉に、子どもたち、
息を呑む……

Q.5. 「この車はなんでこんなに大きいんですか？」

- A. たくさんの道具が入っているからです。
あとで、車の中を見せてあげるよ」



続いて、年中さんから質問が。

年中さんの質問も、いいなあ～、ほのぼのします。

Q.6. 「消防士さんが着ている服は、どうしてオレンジなんですか？」

A. (この質問にも隊員さん、苦笑で…)

幼稚園でも帽子の色の違うクラスがあるように
消防署の中には青い(紺)服・オレンジの服
・グレーの服の人、とグループによって
着ている服の色が違ってきます。
ちなみに、オレンジは救助隊(レスキュー)、
グレーは救急隊員で、紺色は、警防隊(火消し)
だそうです。



Q.7. 「どうしてそんなに、かっこいいんですか？」

A. 幼稚園にいるみんなぐらい、小さい時から
一生懸命頑張ってきたからです！



年長さんの質問をよく聞いていたんだね、スゴイ！

その他、年少さんと隊員の、フリーダムなやりとりの中で…

Q. 「なんで(消防自動車は)赤いの？」

A. 「さっき、ドイツから入ってきたとかなんとか
言ってたけど……(本当は)

何回も火事に呼ばれて、火の近くに行っている間に
赤くなったんだよ…火って赤いでしょ～」

※隊員の方、担任に小さな声で、「(こんなこと言って)すみません…」

と苦笑されていたようですが、年少さんには、ドイツの消防車の話より、
納得がいったようだったとか。

そして、それを自分の言葉で、
もう一度聞き直せることも、スゴイ！

隊員さんのわかりやすい
説明も、ありがたい

Q. 「救助工作車のはしごの長さは何メートルですか？」

A. 「9m です。消防署に、留守番させてきた
はしご車には、35m のはしごがついていて、
ビルの 12 階建てぐらいまで届くよ！
今度ぜひ、見においで！」

＼(´_`)／～ヤッター
誘われちゃった！



今度は、隊員の方から子どもに、逆質問。

Q. 「これ、なーんだ？」

子ども 「葉っぱを切るもの（剪定ばさみのこと）！」
「正解は、ボルトクリッパーと言って、
フェンスの網やタイヤを切ることができるよ！」

剪定ばさみを連想する
子ども、スゴイ！

「これは、おの。穴をあけることもできて、
これ一本で鉄のドアを壊すことができるよ。
例えば閉じ込められている人がいると、
そこを壊して、人を助けることができるよ」



「大きいはさみ。車のドアまで切れるよ。
交通事故などで車に挟まれている人を、
助けることができるんだよ」



Q. 「この筒の中には、何が入っていると思う？」

年中・年長「ガス！！」

年少「リュック！」（笑）「遠足！」（さらに笑）

「空気が入っているんだよ。火事で煙だらけの所では
このマスクを着用すると、背中の中の筒の中の空気が
吸えるんだよ。この間、高速道路のトンネル火災で
出動したときにも、これをつけて作業したんだよ」



次の日、隊員に質問した子どものお母さんから。「隊員の方に質問したって言っていました」と、質問の内容まで伝えていたようです。母「それで、どう言われたの？」子「忘れた～(笑)」母(ズコー) (笑)

救助工作車の見学はもとより、精悍な隊員さんに向けて、しかも大勢の前で、緊張しながらも質問できたことは、心に残る大きな経験になったのだろうと感じるエピソードでした。